『権記』に見られる「時」の表現
――一日（24時間）を中心として――

A Study of Time as Seen in *Gonki*

（1988年4月7日受理）

清　水　教　子
Noriko　Shimizu

Key words: 字音語，和語，混種語

一　初　め　に

『権記』（以下，本文献と呼ぶことにする）は，三蹟の一人として名高い藤原行成の日記である。行成は，天禄3年（972 ）から万寿4年（1027）まで生存し，権大納言・正二位にまで成っている。本文献は，行成20歳から40歳まで，即ち，正暦2年（991）から寛弘8年（1011）まで，全22巻が現存している。記録語の資料としての平安中期の公卿の日記は，本文献の外に，藤原道長の『御堂関白記』と藤原実資の『小右記』とがある。この三者に見られる「時」の表現を調べて，三者の共通点と相違点とを明らかにし，当時の記録語における「時」の体系を究めること，これが当面の最終目標である。

今回は，本文献に見られる「時」の表現の中で，一日（24時間）の表現を中心に述べることにする。本稿の調査には，『増補史料大成』第四巻・第五巻所収の『権記一』・『権記二』（昭和57年発行，臨川書店）を用いた。具体例の引用は，例えば，寛弘八年4月1日の記事（『権記二』154 ページ上段所収）ならば，「今明日御物忌也，仍不御出南殿云云，」（寛弘八4/1 二154 上）のように記すこととする。

ところで，本文献のように漢字ばかり（稀に仮名表記も見られる）で記されている場合，語の認定がなかなか容易ではない。とりわけ，和語か字音語かの認定が難しい場合がある。語の読み方を決めるに当たっては，本文献内でのその漢字の用いられ方を調べた上で，院政期成立・鎌倉時代書写の辞書『三巻本色葉字類抄』（以下，『字類抄』と呼ぶ）を一つのよりどころとした。その外，同時代の『源氏物語』や，鎌倉初期成立の『平家物語』などでの使用例，室町中期成立の『古本節用集』（以下，『節用集』と呼ぶ）の読み方なども参考にした。また，字音語については，『大漢和辞典』によって漢語としての用例があるかないかをも考慮に入れた。

二　本文献に見られる「時」の表現

一日（24時間）の表現としては，時刻や時間を具体的に示す場合と，そうではなく数詞の類を用いない場合とに大別される。前者は，例えば「辰二剋」（たつのニコク）のように数詞を用いる場合であり，後者は，「終日」（シュウシツ）のような語を用いる場合である。以下，若干の具体例を示しながら述べていく。

（一）時剋や時間を具体的に示す場合

「とき」を表す漢字として，『字類抄』や『節用集』では「時・尅」，「コク」を表す漢字として『節用集』では「尅」を挙げている。『字類抄』には，「コク」の単独例はなくて「尅尅」「コクコク」を挙げている。『正字通』によれば，「剋」が正字で「尅」はその俗字である。本文献には「時」と「剋」が両方用いられており，「時」を「とき」，「剋」を「コク」と判別した。

巻末の表1に示しているように，時刻や時間を具体的に示す場合は，「子」（ね）から「亥」（ゐ）までの十二支のいずれかを用いて2時間の幅をもって示す場合と，「子」なら「子」を更に四つに分けて30分の幅をもって示す場合とに大別される。なお，具体例の下線は，筆者が付けたものである。

前者は，十二支のいずれかを単独に用いる場合（①），十二支のいずれかに和語「～のとき」が付け加わる場合（②），十二支のいずれかに字音語「コク」が加わって「～のコク」となる場合（③）の三つの型がある。①は「朝猶雨降，及午有晴気，仍参内，」（寛弘六3/14二112 下）の「むま」，②は「巳時講詩訖，」（長保元10/8一78 下）の「みのとき」，③は「自寅剋被始不断念仏，卯剋参入，午剋罷出，」（長保三12/14一236 上）の「とらのコク・うのコク・むまのコク」などの例に見られる。表1によれば，「～剋」（～のコク）532 例もあり，「～時」（～のとき）80例や「～」26例より圧倒的に多く用いられている。

後者は，次の四つの型に分類できる。A――十二支のいずれかに「初」（はしめ）「了・終」（をはり）のどちらかが加わる場合，B――十二支のいずれかに和語の数詞が加わる場合，C――十二支のいずれかに字音語の数詞「～剋」（～コク）が加わる場合，D――十二支のいずれかに字音語の数詞「～点」が加わる場合である。Aは，④亥初到左大殿，（寛弘六5/17二118 下）⑤辰了出飯室，午剋入京，（長保四4/7一255 上）⑥到着剋限巳終也，（長保二12/20一184 下）に見られる「ゐのはしめ」「たつのをはり」「みのをはり」などである。Bは，⑦子二事了，（寛弘四1/16二72上）⑧巳剋参内，候殿上，午四右金被参云云，（長保三9/11一223下）に見られる「ねのふたつ」「むまのよつ」などである。Cは，⑨辰四剋参入，献御書，（長保元8/21一73 上）⑩戌二剋主上出御南殿，（長保二10/11一166 下）の「たつのよんコク」「いぬのニコク」などである。Dは，⑪于時未二点也，仍着陣北座，頃之打未三点，（寛弘六3/14二113 上）⑫御出行日時，同日，時亥四点，（寛弘八6/25二163 下）の「ひつしのニテン」「ひつしのサンテン」「ゐのよんテン」などである。表1に示すように，A19例・B 3例・C89例・D31例であり，Cの「～剋」（～コク）を用いる型が一番多い。

以上から，前者（2時間の幅をもって示す場合）・後者（30分の幅をもって示す場合）共に，「～剋」（～コク）という字音語を用いる型の多いことが注目される。

なお，時間の経過を示すものとしては，⑬集会衆人一心聴聞，自申至亥，座席雖久，講如食頃，（寛弘八3/27二153 上）のように，「さるよりゐにいたる」と格助詞「より」と動詞「いたる」を用いて示したものがある。また，4時間を示す「二時」（ふたとき）は，⑭卯時誕生女児，二時許不胞落，（寛弘四11/20 二90上）の例に見られる。

（二）数詞の類を用いない場合

数詞の類を用いない場合については，「子」（午後11時～午前1時）から「亥」（午後9時～午後11時）

に至る時間の流れに即し，五つのグループに大きく分けて述べていく。

なお，午前・午後に相当するものとしては，「午上」（コシヤウ）「午後」（ココ）が用いられている。「午上」は①**午上**大雨，申剋参内，（長保三11/13一232 下），「午後」は②**午後**除目召仰云云，今夜候宿，（寛弘元1/21二 3 下）などの例がある。

(1) 真夜中から夜明けごろまでを示す表現

和語を中心とするものとしては，「夜中許」（よなかはかり）「及夜深」（よふけにおよふ）「夜已半」（よすてになかは）「夜深」（よふかし）「夜未明」（よいまたあけす）がある。「暁」（あかつき）に関しては，「暁」の外に，「此暁」（このあかつき）「及暁」（あかつきにおよふ）「至暁」（あかつきにいたる）「臨暁」（あかつきにのそむ）「向暁」（あかつきにむかふ）など，動詞と一緒に用いられた場合がある。また，「暁方」（あかつきかた）「鶏已鳴」（にはとりすてになけり）「未日出」（いまたひいてす）「夜明」（よあく）「日出」（ひいつ）がある。

字音語を中心とするものとしては，「深更」（シンカウ）「及深更」（シンカウにおよふ）「臨深更」（シンカウにのそむ），「夜半」（ヤハン）「夜半許」（ヤハンはかり）「及夜半」（ヤハンにおよふ）「此夜半」（このヤハン）「此夜半許」（このヤハンはかり），「今夜半許」（コンヤハンはかり）「半夜許」（ハンヤはかり）「後夜」（コヤ）「未鶏鳴」（いまたケイメイならす）「未明」（ヒメイ），「暁更」（ケウカウ）「及暁更」（ケウカウにおよふ）「此暁更」（このケウカウ）「払暁」（フツケウ）「今暁」（コンケウ）「遅明」（チメイ），「鶏鳴」（ケイメイ）「及鶏鳴」（ケイメイにおよふ）がある。なお，「きのう」や「あす」の意味まで含んだものとしては，「昨暁」（サクケウ）「明暁」（ミヤウケウ）がある。

「よなかはかり」は①候内，早朝或者云，左丞相自**夜中許**煩給，（長徳三6/8 二219 下），「よふけにおよふ」は②次参一宮，**及夜更**退出，（寛弘八10/2二192 上），「よすてになかは」は③此夜新中将公信過来，言談之間**夜已半**，（寛弘三3/10二54上），「よふかし」は④依左金吾命詣中務宮，**夜深**帰，（寛弘元潤9/6 二19上），「よいまたあけす」は⑤此寅剋許召集官人等罷向，依夜未明，暫経廻五条堀川辺，（長保三7/17一216下），「あかつき」は⑥入夜詣帥宮，（中略）同車参内，暁亦参宮（長保元10/7一78 上），「このあかつき」は⑦左衛門督**此暁**入滅云云，（長保三9/3一221 下），「あかつきにおよふ」は⑧此夜心神乖例，**及暁**復常，（長保三10/19一231 上），「あかつきにいたる」は⑨詣鴨院，与口談通霄**至暁**，中将帰去，（寛弘八9/10二186上），「あかつきにのそむ」は⑩此夜念源闍梨来，終夜言談，臨暁帰去，（長保三4/3一207 下），「あかつきにむかふ」は⑪今夜安唐文殊像於新堂被行正月，左大臣右大将宰相中将被候，予**向暁**帰宅，（長保二1/3一103 下），「あかつきかた」は⑫此夜女人有煩，順朝祈願，**暁方**有傷胎事，（寛弘元9/30二19上），「にはとりすてになけり」は⑬此夢此夜二寝之間見，仍備忽忘挑灯書之，于時**鶏已鳴矣**，（寛弘八11/8二206 上），「いまたひいてす」は⑭今夜亥剋許内裏焼亡，（中略）**未日出**罷出，又帰参，（長保三11/19一233上），「よあく」は⑮丑剋許院侍上毛野有奉走来，（中略）又頻使蔵人孝標奉問，此間**夜明**，（長保二5/17一127上），「ひいつ」は⑯鶏鳴出洛，**日出**到三井寺，（長保三7/25一217下）などの例に見られる。

「シンカウ」は⑰入夜詣右大臣殿，（中略）**深更**帰宅，（長保二8/20一151上），「シンカウにおよふ」は⑱亥初到左大殿，相待相府御坐，**及深更**帰給，（寛弘六5/17二118 下），「シンカウにのそむ」は⑲自左府有召，**臨深更**雖難堪，相構参入，（長保二8/30一154下），「ヤハン」は⑳早旦左京亮国平朝臣来云，修理大夫内方自**夜半**有悩気，已入滅，（正暦四2/29一9下），「ヤハンはかり」は㉑今夜頭中将被過，**夜半許**帰，

（寛弘六6/10二120 上），「ヤハンにおよふ」は㉒戌剋参内，**及夜半**退，（寛弘八5/29二158 下），「このヤハン」は㉓自内詣左府，此夜半渡坐道貞朝臣宅，（長保元7/19一68 上），「このヤハンはかり」は㉔早朝向僧正房，敬久法師**此夜半許**入長谷給，重痾也者，（長保五3/11一284 上），「コンヤハンはかり」は㉕**今夜半許**西方有火，（寛弘二11/15 二44上），「ハンヤはかり」は㉖詣左府，有作文，（中略）**半夜許**作了，帰家及暁，（寛弘三3/24二55上），「コヤ」は㉗暁修法**後夜**未行之前，家僕等高声称乾方焼亡之由，（長徳四3/28一32下），「いまたケイメイならす」は㉘半夜許灌頂，（中略）次之相逢入道権中将，帰路**未鶏鳴**，（寛弘元3/9 ニ7上），「ヒメイ」は㉙夜半許中宮御産気色云云，即参，有気色，丑剋立白木御帳鋪設，依軽服有事憚，**未明**退出，（寛弘五8/9 二102 下），「ケウカウ」は㉚今夜詣広隆寺，（中略）**暁更**帰宅，（寛弘七10/5二144 上），「ケウカウにおよふ」は㉛即参院，今夜渡御右大臣土御門第，又帰宅，一寝之後**及暁更**，（長保三10/8一229 上），「このケウカウ」は㉜**此暁更**傅殿姫君亡去，（寛弘七1/26二133 上），「フツケウ」は㉝**払暁参内**，巳剋罷出，（長徳四7/11一40上），「コンケウ」は㉞早朝両三大夫来云，**今暁**東三条院西対有放火事，（長保二1/9一104 下）。「チメイ」は『字類抄』には載っていないが，『節用集』には載っている。例えば「伊京集」には，「遅明」の右側に「チメイ」，左側に「アクルコロホヒ」とあり，夜明けごろの意味である。㉟依夜未明，暫経廻五条堀川辺，遅明圍件宅，所捕獲也者，（長保三7/17一216下）。「ケイメイ」は㊱**鶏鳴**詣桃園，早朝平納言被参，（長徳四10/10一50上），「ケイメイにおよふ」は㊲有和歌事，事了帰家，**及鶏鳴**，（長保四3/29一254 上）。

なお，「サクケウ」は㊳今夕参内，左少弁示，自**昨暁**主上於東庭有御拝，（長保三4/12一208 上），「ミヤウケウ」は㊴仍**明暁**使官人等蒙宣旨可罷下云云，（長保二7/21一139 上）の例に見られる。

(2) 夜明けから昼過ぎまでを示す表現

和語としては，「朝」（あさ）「朝間」（あさのあひた）「此朝」（このあさ）「旦」（あした）「此旦」（このあした）「今朝」（けさ）「日高」（ひたかし）「昼」（ひる）がある。「朝」「旦」は，両者共に「あした」と読む可能性もあるが，ここでは一応区別してみた。字音語としては，「早朝」（サウテウ）「早旦」（サウタン）「昧旦」（マイタン）「朝旦」（テウタン）「旦朝」（タンテウ）「白昼」（ハクチウ）がある。「昧旦」「朝旦」「旦朝」は，「詩経」や「書経」などに出典のある漢語であり字音語と認めた。「昧旦」は早朝，「朝旦」「旦朝」は朝の意味である。

なお，翌日の意味を含んだ字音語として，「明朝」（ミヤウテウ）「明旦」（ミヤウタン）がある。

「あさ」は①（夜雨），**朝**猶雨降，及午有晴気，（寛弘六3/14二112 下），「あさのあひた」は②詣石山，率女房等，**朝間**雨，巳剋晴，衝昏詣着，（寛弘元8/25二16上），「このあさ」は③自内詣左府，**此朝**候御前之次，仰云，（長保二4/4 一118 下），「あした」は④**旦**参東宮，帰宅，申剋亦参，（長保二12/2一177 下），「このあした」は⑤**此旦**大僧正被送御修法支度，（長保二9/26一161 上），「けさ」は⑥**今朝**講詩之後帰京，入夜到桂河，半夜帰家，（寛弘元潤9/22二19下），「ひたかし」は⑦**日高**参内，参左府，（長保五1/11一279下），「ひる」は⑧**昼**午時太白径天見，又同日酉時与太白在婁同宿，（正暦三1/4 一3上）などに見られる。

「サウテウ」は⑨**早朝**雨，午時許自左府帰，参内，（寛弘二4/1 二30下），「サウタン」は⑩今日**早旦**右大臣候殿上，（長徳元10/3一16下）「マイタン」は⑪**昧旦**三位中将被過，同車詣左府，（長保四9/7 一270上），「テウタン」は⑫**朝旦**左府為使為義朝臣被給四尺屏風四帖，即書色紙形奉之，（長保三1/9 一190 上），「タンテウ」は⑬有弓場初事云云，**旦朝**罷出，（長徳元10/5一17上），「ハクチウ」は⑭阿波権守奏聞寧親

従者持楯帯弓箭，**白昼**破五位以上宅門，成濫行之由云云，（長保二7/26一141 上）の例に見られる。

なお，「ミヤウテウ」は⑮入夜右中弁示送云，**明朝**可被仰一定，（長保元9/7 一75上），「ミヤウタン」は⑯此夕道行朝臣来，示**明旦**可赴任之由，（寛弘六3/15二114 上）の例に見られる。

(3) 昼過ぎから夕方ごろまでを示す表現

和語としては，「夕・晩・昏」（ゆふへ）「臨夕・臨晩・臨昏」（ゆふへにのそむ）「及晩・及昏」（ゆふへにおよふ）「至昏」（ゆふへにいたる），「日暮・日晩・日昏」（ひくる），「夕方」（ゆふかた），昨日の意味が加わった「去夕」（さんぬるゆふへ）がある。外に，夕方を示す表現としては，「日脚已低」（ひのあしすてにひくし）「日已傾」（ひすてにかたふく）「日未入」（ひいまたいらす）がある。

字音語としては，夕方の意味を示す「晩景」（バンゲイ）「晩頭」（バンドウ）「黄昏」（クワウコン）「晡時」（ホシ）がある。「晡時」は，「漢書」や『節用集』にある字音語で，午後4時前後に当たる。（一）で述べた「申剋」（さるのコク）と同じころを示す漢語である。また，「晩景」「晩頭」は，『字類抄』によれば濁点がはっきり打たれている字音語で，「及晩景」（バンゲイにおよふ）という表現もある。「黄昏」は，『節用集』によれば「ゆふくれ」とあるが，『字類抄』『節用集』に「クワウコン」とあり，「楚辞」などにある漢語なので字音語と認めた。「及黄昏」（クワウコンにおよふ）という表現もある。その外，夕方を示す表現としては，「秉燭」（ヘイソク）を用いた「不秉燭」（ヘイソクならす）「未不秉燭」（いまたヘイソクならす）「未及秉燭」（いまたヘイソクにおよはす），「光景」（クワウケイ一日の光のこと）を用いた「光景已昏」（クワウケイすてにくる）「光景漸傾」（クワウケイやうやくかたふく）「光景既傾」（クワウケイすてにかたふく）「光景云斜」（クワウケイななめといふ）などがある。また，「今夕」「昨夕」は，『字類抄』には載っていないが『節用集』に載っており，「詩経」や「唐書」に出て来る漢語なので，字音語「コンセキ」「サクセキ」と認めた。意味は，次の（4）で扱う「今夜」（コンヤ）「昨夜」（サクヤ）などとあまり違わないようであるが，（3）で扱うことにした。

（ゆふへ）は①今朝罷出，夕参院，（長保元9/19一76下）②払暁赴桃園，**晩**帰宅便参三条院，（長保三2/18一198 下）③又同日**昏**酉時与太白並在婁宿，（正暦三4/1 一3上），「ゆふへにのそむ」は④余奉仕僧房，**臨夕**帰家，（長保三12/4一235 上）⑤即共車招右頭中将赴雲林院，有小興，**臨晩**帰家，（長保五3/11一284 上）⑥未剋於馬場殿餛飩如例，**臨昏**有神楽事，（正暦四9/20一11下），「ゆふへにおよふ」は⑦申剋出御，依小忌遅参**及晩**也，（長保元11/25 一88上）⑧午剋許為訪申承香殿女御，詣広隆寺，**及昏**参内，（長徳四12/12 一60上），「ゆふへにいたる」は⑨**至昏**左丞相以下乗舟給，（寛弘六10/4二124 下）などがある。「ひくる」は，⑩亦詣二条殿，為書屏風色紙形，而依**日暮**不書而出，（長保元10/27 一83上）⑪詣左府，依**日晩**不参内，（寛弘七1/26二133 上）⑫自宮参内，比至左衛門陣**日昏**，（寛弘八12/16二211 上）。「ゆふかた」は⑬亦参宮，**夕方**御湯殿，（寛弘五9/13二103 上），「さんぬるゆふへ」は⑭五君**去夕**亡去之由，自彼乳母許示送（寛弘七6/18二141 上）。また，「ひのあしすてにひくし」は⑮依羅表帋，以泥奉書，此間**日脚已低**，然而参内，（寛弘八9/12二187 下），「ひすてにかたふく」は⑯給位記，欲出御，**日已傾**，仍止，（寛弘三12/29 二71上），「ひいまたいらす」は⑰巳剋参内，午剋出御，**日未入**叙列叙位，（寛弘元1/7 二2下）の例に見られる。

「バンゲイ」は⑱晩景示送云，今夜可被行，宿装可参入者，（寛弘八3/18二152 上），「バンゲイにおよふ」は⑲事了上達部殿上人飲食，**及晩景**乗酔参左府，有和歌事，（寛弘元4/30二11下），「バンドウ」は⑳

於世尊寺此君達猶在，**晩頭**同車参内，（長保四9/13一271 上），「クワウコン」は㉑**黄昏**到寺，秉燭之後大臣帰給，（長保三10/27 一232 上），「クワウコンにおよふ」は，㉒日已**及黄昏**，搥鐘入堂，（長保五1/14 一280 上），「ホシ」は㉓晩参左府，聞御梳櫛之由退出，到宅**晡時**也，（寛弘八12/19 二213 下）。また，「ヘイソクならす」は㉔御覧後抜出，右助手勝岡，左癸度那勝，**不秉燭**退出，（寛弘三8/1 二63上），「いまたヘイソクならす」は㉕未秉燭事了，入夜撤堂荘厳，（寛弘八8/2 二175 上），「いまたヘイソクにおよはす」は㉖仍盃酌之間令勤行酒之役，**未及秉燭**事了，（寛弘三7/30二63上）。「クワウケイすてにくる」は㉗両三盃之後，**光景已昏**，即為参左府退出，（寛弘八10/5二193 下），「クワウケイやうやくかたふく」は㉘此間**光景漸傾**，（寛仁元8/9 二236 下），「クワウケイすてにかたふく」は㉙奏雑事之間時剋推移，**光景既傾**，仍不参結政，（長徳四12/15 一60下），「クワウケイななめといふ」は㉚遊戯已闌，**光景云斜**，左大臣退出，（長保二2/3 一110 上）に見られる。また，「コンセキ」は㉛参内，此夕行女王禄事，自**今夕**有可産気色，（寛弘四11/18 二90上），「サクセキ」は㉜辰剋講詩，不罷出，自昨夕於御書所亦有作文，（長保元9/10一76上）の例に見られる。

読み方が決められないものとして，「衝昏」「衝黒」がある。『字類抄』『節用集』『大漢和辞典』のいずれにも載っていないが，字音語「シヨウコン」「シヨウコク」としておく。（和語とするならば，「ゆふへにむかふ」「くろきにむかふ」か。）意味はどちらも，夕方と推測せられる。「シヨウコン」は㉝詣藤宰相殿，亦驛正宮，**衝昏**帰家，（長保四4/16一256 下），「シヨウコク」は㉞有弓事，晩景出給，亦候御共，**衝黒**帰家，（寛弘三3/6 二53下）などに見られる。

なお，「黄昏」に関しては，「クワウコンたらむとす」㉟相待之間，漸**欲黄昏**，仍令尋候内御物忌次将，（寛弘六5/1 二117 上）と読める例もある。

(4) 夕方から真夜中ごろまでを示す表現

和語としては，「此夕・此夜」（こよひ）「夜」（よる・よ）「～夜」（～のよ）「夜間」（よるのあひた）「晩後」（くれてのち）「暗」（くらし）「臨暗」（くらきにのそむ）がある。「夜」は「入夜」（よにいる）「臨夜」（よにのそむ）「達夜」（よにタツす）「過夜」（よをすく）というように，動詞を伴う場合もある。また，「日已入」（ひすてにいる）「日落山椒」（ひサンセウにおつ）「挙燭・挙炬」（ともしひをあく）「挙庭燎・挙燎」（にはひをあく）がある。 あた，昨日の夜を示すものに「夜部・夜へ」（よへ）「去夜」（さんぬるよ），先日の夜を示すものに「一夜」（ひとよ）がある。

字音語としては，「秉燭」（ヘイソク）「昏時」（コンシ）「昏黒」（コンコク）「夜漏」（ヤロウ）「今夜」（コンヤ）「今夜方」（コンヤかた）「今晩」（コンハン）がある。いずれも夜を示す。「昏時」や「昏黒」は，動詞を伴う「及昏時」（コンシにおよふ）「及昏黒」（コンコクにおよふ）の例もある。また，昨日の夜を示すものに「昨夜」（サクヤ）「前夜」（センヤ）「夜前」（ヤセン）があり，昨夜以来という意味を示す「夜来」（ヤライ）がある。「暗夜」（アンヤ）は，やみよのことである。

「此夕」は「このゆふへ」，「此夜」は「このよ」と読む可能性もあるが，『字類抄』に「此夕・此夜」共に「こよひ」とあるので，ここでは「こよひ」と認めた。①**此夕**参院，今夜御左大臣土御門第，（長保三12/13 一236 上）②**此夕**子剋又誕男児，（寛弘五9/26二104 上）③晩自内有召参入，**此夜**五節参入，（長徳四11/22 一57下）④女御**此夜**戌剋出給，（長保二2/10一111 下）。「よる」は⑤今夜舞姫参入，（中略）高雅五節**夜**初参入，（長保五11/15 一297 下），「よ」は⑥無御前試**夜**也，（寛弘元11/16 二23上），「よる

のあひた」は⑦宣旨已下，**夜間**尋勘，後日可勘申者，（長保四9/8 一270 上），「よにいる」は⑧**入夜**右中弁示送云，（長保元9/7 一75上），「よにのそむ」は⑨**臨夜**帰宅，（長保元7/9 一66下），「よにタツす」は⑩宸遊**達夜**，（長保三10/23 一231 下），「よをすく」は⑪中宮出給，供奉戌剋也，**過夜**入道女御入滅，（寛弘五7/16二101 下）。「ひすてにいる」は⑫参内，**日已入**，戌二剋還宮，（長保五10/8一296 上）。「ひサンセウにおつ」は⑬比**日落山椒**還御之後諸卿退出，（長保三9/11一233 下）。なお，「山椒」とは山頂のことである。「くれてのち」は⑭自内罷出，亦**晩後**参候宿，（寛弘二11/21 二44上）。「くらし」は，⑮仰云，已及昏**暗**，可令結三番，（長徳四3/28一34下），「くらきにのそむ」は⑯依**臨暗**不能召仰，（長保元12/9一96下）。「ともしひをあく」は⑰殿司挙燭立柱下，丑一剋事了，（長徳四1/7 一21上）⑱此間主殿**挙炬**，（長保三10/7一228 下）。「にはひをあく」は⑲主殿寮**挙庭燎**，（長保二12/29一188 下）⑳此間所司**挙燎**，十三番（長保二7/27一142 上）。また，「よへ」は㉑老尼御悩危急，自近衛殿告来，乍驚馳詣，女房等云，**夜部**甚重坐，今間雖重猶自**夜〻**小軽也云云，（長徳四3/20一30上），「さんぬるよ」は㉒自五条帰，**去夜**亥時許院令崩給云云，（寛弘五2/9 二96下），「ひとよは㉓右中弁参会内，示云，**一夜**於山為汝見吉想云云，（正暦四7/19一10上）。

「ヘイソク」は㉔酉剋許事了，**乗燭**入京，経阿弥陀嶺，今夕渡西対，（長保四12/21 一277 上），「ヘイソクののち」は㉕五六両親親王此夜可被申慶賀也，**乗燭之後**参内，（寛弘八9/17二189 下），「ヘイソクにおよふ」は㉖申終大臣参入，官奏間**及乗燭**，（寛弘五11/13 二104 下）。「コンシ」は㉗**昏時**依丞相命参中宮，（長保三1/9 一190 下），「コンシにおよふ」は㉘以右府命示云，先先候奏間，自**及昏時**，供御殿油，（長徳三10/19 二232 上）。「コンコクにおよふ」は㉙酉剋右中弁説孝，奏申，御装束間，已**及昏黒**，出御，（長徳三10/19 二232 上）。「ヤロウ」は㉚地震三度，午剋一度，酉剋一度，夜漏一度，（寛弘八4/8 一154 上），「コンヤ」は㉛**今夜**亥剋許内裏焼亡，（長保三11/18 一233 上）㉜**今夜**子剋棄児於乙方東河原也，（寛弘五9/28二104 上），「コンヤかた」は㉝**今夜方**人人詣賀茂祈也，（正暦四2/28一 8 下），「コンハン」は㉞**今晩**信乃守済政朝臣来，示明日赴任之由，今夜出世尊寺，（長保四3/10一250 下）。また，「サクヤ」は㉟信行送食物於僧房云，**昨夜**御殿北屋未申妻付火，撲滅云云，（長保四10/24 一275 下），「センヤ」は㊱**前夜**夢行法事甚不浄之由，是一日於桃園所祈申也，（長保四9/26一272 上），「ヤセン」は㊲又寺所司并権別当律師林懐已講等来，逢，即謝律師**夜前**無告人不対面之由，（長保元10/10 一78下）。「ヤライ」は㊳早旦挙直朝臣告送云，**夜来**大雨，鴨河堤絶，河水入洛，（長保二8/16一149 上），「アンヤ」は㊴但罷過之間番箭抜刀之者有一両，依**暗夜**慥不知其人云云，（長保元12/1一90上）に見られる。

(5) そ の 他

現在を示すものとしては，「今」（いま）「今間」（いまのあひた）「只今」（たたいま）がある。「いま」は①覚運大僧都去夜卒去云云，仏法棟梁，国家珍宝也，**今**聞逝去，悲涙麗襟，（寛弘四11/1二89上），「いまのあひた」は②少将今朝甚不覚，**今間**頗宜，湯治験也云云，（長保元7/8 一66下），「たたいま」は③右宰相中将自院示云，**只今**可参，即馳参，（寛弘八6/19二162 上）に見られる。

夜となく昼となくいつもの意味としては，「夜昼」（よるひる）がある。④帰家詣世尊寺，自今日限五ケ日，**夜昼**転読仁王経，（寛弘三5/10二57下）。

朝夕にの意味を示すものとしては，「于朝于夕」（あしたにゆふへに）がある。⑤去年丞相累月有恙，亜将于朝于夕嘗薬無違，（長保三2/4 一195 下）。

「月」（つき）を用いることによって，大体の時を示す場合がある。夜を示すものとしては「月出」（つきいつ），月の明かりを頼りとする意味の「乗月」（つきにのる），夜明けのころと思われる「月西傾」（つきにしにかたふく）「月未入山椒」（つきいまたサンセウにいらす）がある。「つきいつ」は⑥早朝詣左府，月出帰宅，（寛弘元8/22二16上），「つきにのる」は⑦晩景与中弁罷出，詣閑院，乗月帰畢，（長保三8/12一219 下），「つきにしにかたふく」は⑧入夜詣左衛門督殿，月西傾帰家，（寛弘元12/12 二24下），「つきいまたサンセウにいらす」は⑨巳剋参内，（中略）月未入山椒事終，退出，（寛弘元1/7 二下）に見られる。

また，一日中を示すものとしては「終日」（シュウシツ），夜どおしを示すものとしては「通夜」（ツウヤ）「終夜」（シュウヤ）がある。「シュウシツ」は⑩早朝参内，終日候，亥剋退出，（寛弘二5/25二32下），「ツウヤ」は⑪成信少将来談之間通夜，（長保三2/3 一195 上），「シュウヤ」は⑫此夜念源闍梨来，終夜言談，臨暁帰去，（長保三4/3 一207 下）に見られる。

所定の時刻という意味を示す「剋限」（コクケン）は，例えば，⑬剋限巳成，冠者着座，（寛弘八1/20二149 下）のように用いられている。

「時」が移ることを示す表現としては，「時移」（ときうつる）「時剋推移」（シコクスイイ）「今剋刻欲過」（いまコクコクとすきむとす）などがある。「ときうつる」は⑭左大弁同今日被参，時移後入内，（長保三10/19 一230 下），「シコクスイイ」は⑮詣右府，奉一昨定文，言談之間時剋推移，参内，（長保四8/19一268 下），「いまコクコクとすきむとす」は⑯依仰相待之間，宰相中将斉信，示云，去年，可出居次将一人不候，以斉信祇候，雖出居不候被始行訖，今剋刻欲過，依去年例申行乎者，（長徳四3/16一29下）に見られる。

三　ま　と　め

「時（とき）」を示すのに数詞の類を用いる場合は，二の（一）で先述したように，「子」から「亥」に至る十二支を用いて表し，2時間の幅を示す場合であれ，30分の幅を示す場合であれ，両者共に「～剋」（～のコク）（～コク）という字音語を用いる型が非常に多い。

それに対して数詞の類を用いない場合は，表2に示すように，和語や字音語を用いて表現がなかなか豊かである。真夜中ごろを示すものとしては，「夜中」（よなか）「夜中許」（よなかはかり）「及夜更」（よふけにおよふ）「夜巳半」（よすてになかは）「夜深」（よふかし）「夜未明」（よいまたあけす）「未日出」（いまたひいてつ）「深更」（シンカウ）「及深更」（シンカウにおよふ）「臨深更」（シンカウにのそむ）「夜半」（ヤハン）「夜半許」（ヤハンはかり）「此夜半」（このヤハン）「此夜半許」（このヤハンはかり）「及夜半」（ヤハンにおよふ）「今夜半許」（コンヤハンはかり）「半夜許」（ハンヤはかり）「後夜」（コヤ）「未鶏鳴」（いまたケイメイならす）がある。

夜明けごろを示すものとしては，「暁」（あかつき）「此暁」（このあかつき）「至暁」（あかつきにいたる）「臨暁」（あかつきにのそむ）「向暁」（あかつきにむかふ）「暁方」（あかつきかた）「鶏已鳴」（にはとりすてになけり）「夜明」（よあく）「日出」（ひいつ），「月未入山椒」（つきいまたサンセウにいらす）「月西傾」（つきにしにかたふく），「未明」（ヒメイ）「暁更」（ケウカウ）「及暁更」（ケウカウにおよふ）「此暁更」（このケウカウ）「払暁」（フツケウ）「今暁」（コンケウ）「遅明」（チメイ）「鶏明」（ケイメイ）「及鶏明」（ケイメイにおよふ）がある。

朝の早いころを示すものとしては，「早朝」（サウテウ）「早旦」（サウタン）「昧旦」（マイタン）がある。

朝を示すものとしては，「朝」（あさ）「朝間」（あさのあひた）「此朝」（このあさ）「旦」（あした）「此旦」（このあした）「今朝」（けさ）「朝旦」（テウタン）「旦朝」（タンテウ）がある。

昼ごろを示すものとしては，「日高」（ひたかし）「昼」（ひる）「白昼」（ハクチウ）がある。

夕方ごろを示すものとしては，「夕・晩・昏」（ゆふへ）「臨夕・臨晩・臨昏」（ゆふへにのそむ）「及晩・及昏」（ゆふへにおよふ）「至昏（ゆふへにいたる）「日晩・日暮・日昏」（ひくる）「夕方」（ゆふかた）「日脚已低」（ひのあしすてにひくし）「日已傾」（ひすてにかたふく）「日未入（ひいまたいらす）「晩景」（バンゲイ）「及晩景」（バンゲイにおよふ）「晩頭」（バンドウ）「不秉燭」（ヘイソクならす）「未秉燭」（いまたヘイソクならす）「未及秉燭」（いまたヘイソクにおよはす）「黄昏」（クワウコン）「及黄昏」（クワウコンにおよふ）「晡時」（ホシ）「衝昏」（ショウコン）「衝黒」（ショウコク）「光景已昏」（クワウケイすてにくる）「光景漸傾」（クワウケイやうやくかたふく）「光景既傾」（クワウケイすてにかたふく）「光景云斜」（クワウケイななめといふ）がある。

夜を示すものとしては，「日已入」（ひすてにいる）「日落山椒」（ひサンセウにおつ）「晩後」（くれてのち）「暗」（くらし）「臨暗」（くらきにのそむ）「此夕・此夜」（こよひ）「夜」（よる）「夜間」（よるのあひた）「〜夜」（〜のよ）「入夜」（よにいる）「臨夜」（よにのそむ）「達夜」（よにタツす）「過夜」（よをすく）「秉燭」（ヘイソク）「秉燭之後」（ヘイソクののち）「及秉燭」（ヘイソクにおよふ）「昏時」（コンシ）「及昏時」（コンシにおよふ）「及昏黒」（コンコクにおよふ）「夜漏」（ヤロウ）「今夜」（コンヤ）「今夜方」（コンヤかた）「今晩」（コンハン）「今夕」（コンセキ）がある。

以上，七つに区分してみると，用例数の上から見て，真夜中ごろを示すものとしては「深更」（シンカウ22例）「及深更」（シンカウにおよふ21例），夜明けごろを示すものとしては「暁更」（ケウカウ24例），朝の早いころを示すものとしては「早朝」（サウテウ110 例），朝を示すものとしては「今朝」（けさ93例），夕方ごろを示すものとしては「晩景」（バンゲイ38例），夜を示すものとしては「此夜」（こよひ136 例）「入夜」（よにいる137 例）「今夜」（コンヤ130 例）が代表的なものである。これらを語種の観点から言えば，和語は「今朝」（けさ）「此夜」（こよひ）「入夜」（よに入る）の三つ，字音語は「深更」（シンカウ）「暁更」（ケウカウ）「早朝」（サウテウ）「晩景」（バンゲイ）「今夜」（コンヤ）の五つになる。

なお，昼ごろを示すものとしては，「日高」（ひたかし４例）「昼」（ひる１例）「白昼」（ハクチウ１例）と種類も用例数も少ないが，現代と同じく「昼」（ひる）が代表的なものであろう。

表1　具体的に時刻や時間を示す場合

時刻		読み方	表記	十二支のいずれかのみ	～時（～のとき）○	～剋（～のコク）○	計	初（はしめ）○ 又は了・終（をはり）○	和語の数詞	～剋（～コク）○	～点（～テン）○	計
1	子	ね	○	2	2	29	33	1	2	12	4	19
2	丑	うし	○	0	1	30	31	0	0	13	0	13
3	寅	とら	○	1	5	11	17	1	0	0	0	1
4	卯	う	○	0	4	7	11	0	0	1	0	1
5	辰	たつ	○	2	6	44	52	4	0	3	3	10
6	巳	み	○	2	10	59	71	2	0	0	10	12
7	午	むま	○	10	30	58	98	2	1	5	3	11
8	未	ひつじ	○	1	2	70	73	1	0	17	8	26
9	申	さる	○	4	4	84	92	6	0	8	1	15
10	酉	とり	○	0	3	49	52	0	0	7	0	7
11	戌	いぬ	○	0	4	52	56	1	0	8	0	9
12	亥	ゐ	○	4	9	39	52	1	0	15	2	18
計				26	80	532	638	19	3	89	31	142
				106				22		120		

（○印は，『三巻本色葉字類抄』に載っている場合を示す。）

表2　数詞の類を用いない場合

和語を主とするもの			数	ABC	字音語を主とするもの			数	ABC
(1) 真夜中から夜明けごろまで									
1	夜中	よなか	0	××	12	深更	シンカウ	22	○○○
	夜中許	よなかはかり	1			及深更	シンカウにおよふ	21	
2	夜更	よふけ	0	××		臨深更	シンカウにのそむ	1	
	及夜更	よふけにおよふ	1		13	夜半	ヤハン	8	×○○
3	夜已半	よすてになかは	1			夜半許	ヤハンはかり	8	
4	夜深	よふかし	1	××		及夜半	ヤハンにおよふ	4	
5	夜未明	よいまたあけす	1			此夜半	このヤハン	1	
6	暁	あかつき	10	○○		此夜半許	このヤハンはかり	3	
	此暁	このあかつき	12		14	今夜半許	コンヤハンはかり	1	×××
	及暁	あかつきにおよふ	4		15	半夜許	ハンヤはかり	4	○×○
	至暁	あかつきにいたる	1		16	後夜	コヤ	6	××○
	臨暁	あかつきにのそむ	1		17	未鶏鳴	いまたケイメイならす	1	
	向暁	あかつきにむかふ	1		18	未明	ヒメイ	1	○○○

7	暁方	あかつきかた	1	××	19	暁更	ゲウカウ	24	○××
8	鶏已鳴	にはとりすてになけり	1			及暁更	ケウカウにおよふ	3	
9	未日出	いまたひいてつ	1			此暁更	このケウカウ	1	
10	夜明	よあく	3		20	払暁	フツケウ	10	×○×
11	日出	ひいつ	8		21	今暁	コンケウ	1	×××
					*22	昨暁	サクケウ	1	×××
					*23	明暁	ミヤウケウ	1	○××
					24	遅明	チメイ	7	×○○
					25	鶏明	ケイメイ	7	○○×
						及鶏明	ケイメイにおよふ	1	
		(2) 夜明けから昼過ぎまで							
1	朝	あさ（あした）	22	○×	6	早朝	サウテウ	110	○×○
	朝間	あさのあひた	6		7	早旦	サウタン	18	×○○
	此朝	このあさ	1		8	昧旦	マイタン	1	××○
2	旦	あした	6	○○	9	朝旦	テウタン	1	××○
	此旦	このあした	2		10	旦朝	タンテウ	1	××○
3	今朝	けさ	93	○○	*11	明朝	ミヤウテウ	3	×○○
4	日高	ひたかし	4		*12	明旦	ミヤウタン	2	○○○
5	昼	ひる	1	○○	13	白昼	ハクチウ	1	○○○
		(3) 昼過ぎから夕方ごろまで							
1	夕	ゆふへ	27	○○	8	晩景	バンゲイ	38	○○○
	晩	ゆふへ	5	○×		及晩景	バンゲイにおよふ	7	
	昏	ゆふへ	1	○×	9	晩頭	バンドウ	2	○○×
	臨夕	ゆふへにのそむ	1		10	今夕	コンセキ	66	×○○
	臨晩	ゆふへにのそむ	1		*11	昨夕	サクセキ	8	×○○
	臨昏	ゆふへにのそむ	12		12	不秉燭	ヘイソクならす	1	
	及晩	ゆふへにおよふ	1		13	未秉燭	いまたへイソクならす	1	
	及昏	ゆふへにおよふ	9			未及秉燭	いまたへイソクにおよはす	1	
	至昏	ゆふへにいたる	1		14	黄昏	クワウコン	3	○○○
2	日暮	ひくる	4	×○		及黄昏	クワウコンにおよふ	3	
	日晩	ひくる	4	××	15	光景已昏	クワウケイすてにくる	1	
	日昏	ひくる	3	××					
3	夕方	ゆふかた	4	××	16	光景漸傾	クワウケイやうやくかたふく	1	
*4	去夕	さんぬるゆふへ	34		17	光景既傾	クワウケイすてにかたふく	1	
	黄昏	ゆふくれ	8	×○	18	光景云斜	クワウケイななめといふ	1	
	及黄昏	ゆふくれにおよふ	3		19	晡時	ホシ	1	×○○
5	日脚已低	ひのあしすてにひくし	1		20	衝昏	シヨウコン	2	×××
6	日已傾	ひすてにかたふく	1		21	衝黒	シヨウコク	14	×××
7	日未入	ひいまたいらす	1						

(4) 夕方から真夜中ごろまで

1	日已入	ひすてにいる	1	
2	日落山椒	ひサンセウにおつ	2	
3	晩後	くれてのち	3	
4	暗	くらし	1	×○
	臨暗	くらきにのそむ	1	
5	燭・炬	ともしひ	0	○×
	挙燭	ともしひをあく	8	
	挙炬	ともしひをあく	1	
6	庭燎・燎	にはひ	0	○△
	挙庭燎	にはひをあく	1	
	挙燎	にはひをあく	1	
7	此夕	こよひ	75	○×
	此夜	こよひ	136	○×
8	夜	よ・よる	13	○○
	入夜	よにいる	137	
	臨夜	よにのそむ	1	
	達夜	よにタッす	1	
	過夜	よをすく	1	
	夜間	よるのあひた	1	
9	～夜	～のよ	6	○○
*10	夜部	よへ	5	××
	夜へ	よへ	1	××
*11	去夜	さんぬるよ	18	
*12	一夜	ひとよ	1	×○
13	秉燭	へイソク	35	○×○
	秉燭之後	へイソクののち	2	
	及秉燭	へイソクにおよふ	10	
14	昏時	コンシ	1	××○
	及昏時	コンシにおよふ	2	
15	昏黒	コンコク	0	××○
	及昏黒	コンコクにおよふ	1	
16	夜漏	ヤロウ	3	××○
17	今夜	コンヤ	130	×○○
18	今夜方	コンヤかた	1	×××
19	今晩	コンハン	1	××○
*20	昨夜	サクヤ	1	×○○
*21	前夜	センヤ	2	××○
*22	夜前	ヤセン	8	×○×
*23	夜来	ヤライ	2	××○
24	暗夜	アンヤ	2	××○

(5) その他

1	今	いま	51	○○
	今間	いまのあひた	7	
	于今	いまに	4	
	於今	いまに	1	
	至今者	いまにいたりては	3	
2	只今	たたいいま	21	×○
3	夜昼	よるひる	1	××
4	于朝于夕	あしたにゆふへに	1	
5	月	つき	0	○○
	月出	つきいつ	1	
	乗月	つきにのる	1	
	月未入山椒	つきいまたサンセウにいらす	1	
	月西傾	つきにしにかたふく	3	
6	時	とき	0	○○
	時移	ときうつる	1	
7	終日	シウシツ	15	○○○
8	通夜	ツウヤ	1	○×○
9	終夜	シユウヤ	3	××○
10	剋限	コクケン	8	×△△
	剋限已過	コクケンすてにすく	4	
	剋限已至	コクケンすてにいたる	3	
	剋限已成	コクケンすてになる	2	
11	時剋	シコク	10	×△△
	時剋推移	シコクスイイ	11	
	時剋移	シコクうつる	2	
	時剋多移	シコクおほくうつる	2	
	時剋欲移	シコクうつらむとす	1	
	時剋相遷	シコクあひうつる	1	
	時剋推遷	シコクおしうつる	1	
12	午上	コシヤウ	5	×××
13	午後	ココ	5	××○

注 A 『三巻本色葉字類抄』
B 『古本節用集』
C 『大漢和辞典』

○印は，載っている場合
×印は，載っていない場合
△印は，漢字が異なる場合
を示している。